

北海道教育研究所連盟第13次共同研究

北海道教育研究所連盟*1では、全国教育研究所連盟第19期共同研究と同一の主題を設定し、共同研究推進委員会*2を中心とした研究を3カ年計画（平成19年度～平成21年度）で推進します。

全国教育研究所連盟第19期共同研究及び北海道教育研究所連盟第13次共同研究主題

実践的な指導力の向上を図る これからの教員研修の在り方

【主題設定の基本的な考え方】

- 全教連の研究主題を踏まえ、北海道の課題を明らかにする3カ年の研究とすること

【主題設定の背景】

- 児童生徒の現状と学校教育への期待
 - ・ 社会の急激な変化に伴い、喫緊の教育課題が山積みされており、その解決に当たっては、教育に直接携わる教師の資質・能力に負うところが極めて大きいこと
- 教員をめぐる状況の変化
 - ・ 教育や教員に対する関心や期待が高まる一方で、信頼が揺らいでいること
 - ・ 北海道の広域性や学校規模の縮小化により、他の地域の取組状況が把握しにくかったり、教員が互いに学び合うことが困難になってきていること

【教員研修の重要性】

- 教員自身の自己啓発の意欲と努力が不可欠であり、絶えざる研修が求められていること
- 教員の実践的な指導力の向上に向けて、各学校における日常的・計画的な校内研修の工夫・改善が望まれていること
- 研究所・センター等による、校内研修への支援の在り方について、実践的な視点から考えることが望まれていること

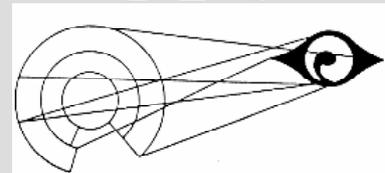
【研究内容】

- 1 実践的な指導力の向上を図る校内研修の在り方
 - (1) 授業研究を核としたこれからの校内研修の在り方
 - (2) 組織力を生かした校内研修体制の確立
- 2 実践的な指導力の向上に向けた支援体制の構築
 - (1) 実践的な指導力の向上に結びつく研修の推進

【今年度の研究計画】

- 研究の方向性の確立・年次計画の策定
- 校内研修の現状と課題の把握・分析
- 校内研修の在り方に関する理論研究
- 教育研究所と校内研修支援体制の現状と課題の分析
- 教員研修の推進に関する現状と課題の分析
- 実践事例等の収集
- 第1年次のまとめ

連盟図



由来～貝殻状の眼は教育研究の中心を象徴し、北海道を表す三重の同心円と結び合うことで、連盟の組織のつながりと広がりイメージしています。昭和44年に作成されました。

*1 本連盟は、北海道における教育研究所・センターならびにこれに準ずる機関をもって構成する。（昭和25年4月に制定 事務局は北海道立教育研究所 平成19年4月20日現在で全道56機関が加盟）

*2 北海道教育研究所連盟の中から8つの研究所・センター（石狩、空知、後志、胆振、上川、十勝、札幌市、岩見沢市）の所員各1名、道立教育研究所から4名、計12名の推進委員で構成される。